



滴が落ちる音を聞くためにじっと耳を澄ます児童

## 児童クラブでお茶会 茶の湯の風情伝える

葛巻児童クラブの1年生から6年生の17人は1月10日、保健センターでお茶会を行い、茶道の所作やおもてなしの心を学びました。講師は長朶千賀子さん(田子)。分かりやすいように動きの一つ一つを確認しながら進め、茶碗にお湯を注ぐ音や滴が落ちる音、お茶をたてる音に耳を澄ませては、茶の湯の風情を伝えていました。子どもたちは姿勢を正し、緊張した様子を見せながらも季節のお菓みに頬を緩めたり、お茶の味に歯をかみしめるなど、素直な気持ちを表情に表していました。



優しい豊かな音色でオープニングを飾るオカリナの会「葛」の皆さん

## 訪れたくなる町目指し 新年交賀会で決意新た

町民憲章推進協議会(中村哲雄会長、加盟79団体)主催の新年交賀会は1月5日、グリーンテージで町民ら130人が参加し、にぎやかに開催されました。オープニングはオカリナの会「葛」の皆さんによる演奏。豊かな音色で会場を包み込みました。また、中村会長は「町が進める施策を深く理解し、応援していきましょう」とあいさつ。鈴木重男町長は「人材が育つ町、人が訪れたくなる町を目指し、今後のまちづくりに取り組んでいきたい」と新春のあいさつを述べました。

## 共に生きるまちづくり 認知症への理解深める

認知症講演会は1月15日、総合センターで開催され、町民のほか町内事業所や施設職員など48人が参加し、認知症への理解を深めました。「認知症と共に生きるまちづくり」と題して、岩手西北医師会認知症地域支援ネットワーク代表の紺野敏昭医師(このの神経内科・脳神経外科クリニック理事長)が講演。認知症の人のための買い物支援の取り組みなどを紹介しました。参加者たちは「自分たちに何ができるか」をテーマに、気軽に集える居場所づくりが重要など、さまざまな意見を交わしていました。



認知症の人のために取り組んだ支援の内容について紹介する紺野敏昭医師と真剣に耳を傾ける参加者の皆さん

## 小学生スキー教室開催 基礎を学び上達目指す

1月11日と12日の2日間、平庭高原スキー場で小学生スキー教室(町スポーツ協会スポーツクラブ主催)が開催され、町内の小学生18人が町スキー協会員から指導を受けました。初級コースでは初参加の1年生が、スキー板を付けて歩く練習から開始。慣れないスキー板に戸惑いながらも練習を重ねるにつれ、前を見ながら滑ることができるようになっていました。木下煌大さん(五日市小1年)は「疲れたけれど、リフトで上に登って滑ってくるのが楽しかった」と充実した顔をのぞかせていました。



町スキー協会員から指導を受ける初級コースの子どもたち



歌に合わせてもちつきを楽しむ園児たち

## 小屋瀬保育園でもちつき 力を合わせてぺったんこ

1月16日、小屋瀬保育園(深澤口久美子園長囑託員、園児13人)で「もちつき会」が行われ、園児と小屋瀬児童クラブの1年生から6年生までの児童5人がもちつきを体験しました。ふかしたもち米をきねでつくうち、粘り気を増してもちが変わっていく様子に子どもたちは興味深々。順番を待ちながら、童謡「もちつきぺったんこ」を元気いっぱい歌っていました。坂本輝季くん(6歳)は「楽しかった。またやりたいです」と大好きなきな粉もちをおいしそうに頬張っていました。



仲間と協力してイグルー作りに取り組む関村悠希さん

## スノーワンダーランド 絆深めたイグルー作り

1月4日から17日の14日間、くずまき高原牧場で「第20回くずまき高原牧場スノーワンダーランド2020」が行われ、町内外から29人が参加しました。雪のブロックを積み上げて作る「イグルー」作りでは、作業を通して同じグループの仲間と協力。声を掛け合いながら絆を深めていました。関村悠希さん(葛巻小3年)は「雪のブロックを運ぶのは大変だけど、楽しい。動いていると全然寒くないです」と笑顔で話し、来年の参加も楽しみにしていました。